



日中友好映画企画提案書

特定非営利活動法人・知識の杜

『五十嵐さん、走る！（仮）』

中国人留学生 4000 人と交流した「日本のお父さん」

～その友情と、無償の愛の物語～

企画意図

○日中平和友好条約締結 40 周年

現在日中関係は政治的な不穏の時を迎えています。メディアなどではさかんに日中関係の悪化などが日々報道されています。確かに外交的にはそうなのかもしれません。では、個人レベルでもそうでしょうか？不穏なのはあくまで政治レベルの話であり、個人レベルでは結局は私たちは一人の人間として、互いに接している筈です。私たちは日々、尊敬、対話、友情、信頼を互いに築いている筈です。日中友好、それは決して政治的な話に限定されるものであってはなりません。2018 年は日中平和友好条約締結 40 周年を迎えます。

政治的に不穏な今だからこそ、この映画が互いの関係を見直す小さなきっかけになってくれたらと、願って止みません。

中国人留学生 4000 人と、心からの交流をした日本人そして、立身出世を遂げた中国人留学生達が、日本人を支えた、日中双方の交流、支え合い人生の物語。

実を嘲笑う無償の愛の物語が、日本の片隅にひっそりとある八百屋にあるのをご存知でしょうか？ いま日中両国は経済的な発展を遂げ、情報化、グローバル化の社会を迎え、人と人の繋がりが希薄になりつつあります。人との直接的な繋がりを恐れ、SNS の世界に没頭する若者たち。

そんな今だからこそ、人と人との繋がりが起こす奇跡の力を映画を通じて描きたい。それは強烈なメッセージとして、心に届くものと信じています。

私たちは決して政治的な映画を作ろうとしているのではありません。また昨今テレビ番組などでよく見られるような、日本を礼賛する類いの映画でもありません。尊敬と信頼、そして強い友情の物語を描きたいと考えています。

もしも人生に幸運というものがあるとしたら、それは忘れ難い友人を得ることなのではないでしょうか？ しかもその幸運が特別なものであるならば、たとえ互いがどのような道を歩むことになるろうとも、どんなに遠くにいようとも、友情の距離が遠くなることはありません。私たちの前には大人になるにつれ社会という厳しい現実が立ちはだかり、否応なしに自分を防御する為の壁を何重にも築きます。しかしそんな壁をいとも簡単に打ち砕く友情がそこには存在しました。そのきっかけは何でもないこと。

リトルヘルプの精神。

「リトルヘルプ」それは、ちょっと助けてくれないかという意味。

キャッチボールで後ろへそらしてしまったボールを誰かに拾って貰ったり、電車で席を譲ってもらったり、その程度のこと。その程度のことか後に大きな奇跡を生み出します。

「この映画は、そんな奇跡のような実話に基づいています」

日中友好 40 周年の節目の年を迎えるにあたり、民間人として、日中友好の架け橋を構築した、五十嵐勝氏の軌跡を、現代の視点から見た映画制作を企画致します。

五十嵐氏と交流のあった 4000 人の留学生は今や中国全土、日本国内で幅広く活躍されています。中国で映画上映されれば、その 4000 人のネットワークは何倍ものパワーを発揮して、観客動員を計れるものになると推察されます。映画館数 4 万カ所。

プロフィール

1942年、福島県会津市生まれ、いわき市育ち。85年ごろから2000年代前半まで、中国人留学生約4,000人との交流。89年、第1回「倉石賞」（日中学院 倉石武四郎先生記念基金）を夫妻で受賞。中国の大学および日本語学校で使用する日本語学習書『新編日語』（上海外語教育出版社）の第16課のタイトルは「五十嵐勝さん」である。また『中外名人辞典』（中国の紳士録と言われる）に、日本人として唯一人載る。訪中は200回を超え「中南海」に行き、「迎賓館」にも宿泊した。

民間人として、

胡耀邦（第3代中国共産党中央委員会主席）

孫平化（第3代中日友好協会会長、日中国交回復に尽力）

唐家璇（元外相・国務委員）

武大偉（元外務次官・駐日大使）

鄧穎超（周恩来夫人、第4代全国政治協商会議主席）

王光美（劉少奇夫人、元全国政治協商会議常務委員）

など多くの中国要人と面会した。

